

令和4年度第5回差別事象検討小委員会における主な意見と対応方針案について

<p>(1) コミュニケーション編</p> <p>～刑を終えて出所した人の情報がSNSで拡散された事例～</p>	
<p>主 な 意 見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的でわかりやすいと思う。 ・とてもわかりやすい事例として整理されていてよいと思う。 ・※のところ、「不当な差別、偏見、その他不利益が生じるような情報を発信してはいけないこと」となっているが、「情報を発信してはいけない」ということは、「表現をしてはいけない」ということであり、例えば、人権侵害にあたるような表現はやめましょうと言ったときに、個々がこれは人権侵害、これは人権侵害ではないと正確に判断できるかというところが難しいところがある。そういう意味で、発信してはいけないという強いメッセージを出すと、表現することについての萎縮の効果が強く出てしまうのではないかと心配である。 ・例えば、情報発信する際には、差別にあたらないかに注意して発信しましょうかとかにはしてはどうか。 ・「情報になりはしないかということ立ち止まって考えましょう」ではどうか。 ・正しい情報だからといっても不当な差別や偏見や他者に不利益を生じるような情報ではないか、よく考えて、立ちどまって、よく考えることが必要であるので、「不当な差別や偏見や不利益が生じるような情報ではないか立ち止まってよく考えることが必要である。」でどうか。
<p>対 応 方 針</p>	<p>○【Bさんの立場から考えてみる】の下の※部分を以下の記載に変更</p> <p>※デマやフェイクニュースを拡散することはもちろんいけないことだが、正しい情報だからといって不当な差別、偏見、その他不利益が生じるような情報<u>ではないか、立ち止まって考えることが必要である。</u></p>
<p>(2) セルフコントロール編</p> <p>～大学の非公開SNSグループでの性的マイノリティを嫌うような差別的な言葉の投稿に「同感」と返信しようとしたが思いとどまった事例～</p>	
<p>主 な 意 見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・AさんもBさんも正しい行いをしたというよりは、どちらかは当事者側の方が良いのではないかと。どちらかがアップstanダーになるという方が物語としては良いのではないかと思う。一方は「同感」と言ってしまったが、一方は、「あれは差別だよ」と、そのグループの他のメンバーに声をかけたというように役割を分けた方がいいのではないかと。 ・この物語は、もともとアメリカの教材が原案になるので、授業の中で講義をするときは、アメリカではこういう場合、普通に入学を取り消す判断が下されると話をするが、これだけを読むと「えっ、こんなことで入学取消」とそっちの方がおかしいのではないかと、そっちに注目されてしまいそうなので、「入学取消の調査を行うことになった」というぐらいに表現を緩めてもらったほうがいいかなと思う。「入学取消の調査を行うことになって、同感と返信していた生徒にもヒアリングが行われた」というような感じで。 ・見て見ぬふりをする人が行動する人になることが大事だということをここで一番伝えたいので、悪い投稿をしてはいけないということではなく、それを見たときに、行動することが大事だということをここでは強調してほしい。 ・大学の非公開SNSグループとなっていて、これから大学に入る入学者のグループだという説明がない。(原案は、大学の入学者の非公開SNSグループとなっており、これから大学に入学する高校生の事例)

	<p>・性的マイノリティの意味を正確に正しく理解されていない人がとても多いので、性的マイノリティの説明も必要かなと思う。</p>
<p>対応方針</p>	<p>○事例を以下のとおり修正</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学に合格したAさん、Bさんは、いち早く人とつながりたいと思い、その大学の合格者の非公開 SNS グループに参加。グループ内で、ある合格者が性的マイノリティを嫌うような差別的な言葉を投稿した。 2 Aさんは、はじめはその投稿を見たときに不快に思ったが「大学で新しい友達を作りたい」という気持ちから、差別的な投稿に「同感」を返信。 3 一方、Bさんは差別的な内容と認識し、「差別的な投稿は許されるものではない、投稿するべきではない」と SNS グループ内の友達に声をかけた。 4 数週間後、大学の審査チームが、この SNS グループ内の差別的な投稿に関する通報を受けたため、入学取り消しの調査をすることとなり、Aさんをはじめ「同感」と返信した者にヒアリングが行われることとなった。 <p>○性的マイノリティの意味については、県HPの「性的マイノリティの人権について」のリンクを張る。</p>
	<p>(3) 情報発信編</p> <p>～海外によく出かける会社社長の姿が長期間見えないという理由で、SNSに社長が海外でコロナに感染したのではないかと投稿した事例～</p>
<p>主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、これにちょっと不満がある。コロナで契約解除ということがあり得るのか。契約解除というよりも、風評被害により会社の配達業務等について、問い合わせが相次いだというようなことであれば理解できるが。 ・憧れにもポジティブな憧れもあるし、“妬み”に近いようなネガティブな憧れもあるわけで、どちらの気持ちもないところで、単にAさん（会社社長）が長期間休んでいるだけで、BさんがAさんはコロナではないかと SNS に投稿するという行為に繋げるのは、現実的ではないように思う。 ・Aさんは、海外に出張に行くたびに SNS に投稿していたが、その投稿がパタッと止まってしまった。それを見たBさんが、最近Aさんの投稿がないので、海外で新型コロナウイルスをもらってきて、それでバツが悪くて投稿出来ていないのではないかみたいなことを書き込んだために、それが風評被害に繋がり、会社のウェブサイトには書き込みであるとか、問い合わせ等が次々くるようになって業務にも支障をきたすようになったぐらいで、いいかもしれない。契約解除は確かに私もオーバーかなと思う ・コロナという病名を出すよりは、新型コロナウイルスといったような感じの表現にしたほうがいいかなと思う。 ・ SNS に書き込んだ内容も、「A社長は海外で感染したのではないか」との書き込みすると、思い込みがさらに強調される感じがする。 ・Bさんのところに、バイアスについてももう少し書いたほうがいいのではないかなと思う。自分が思ったように情報を解釈するのではなく、やはり違う見方をしたり、自分は何を見ていないか、自分で気が付いていないことを意識するようにするのって難しいんだなっていうところを。情報の発信前には注意が必要と言っても、思い込みがある人は、注意することすら出来ないのだから、あなたにも、私たちにも思い込みや偏見というのがやっぱりあるんだってことを踏まえた上で、向き合っていかなきゃいけないということを書かなければいけないのではないかなという気がする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・思い込みで情報を判断していないか、判断には根拠があるのか。考えてみる必要がある。誰にでも思い込みや固定概念、固定観念っていうのがあるので。(この部分の文章を考えてみる) ・勝手な思い込みを取り除くというのは、個人の力ではすごく難しい。どうやって取り除くかっていうとそれは、人権教育しかない。人権研修や人権教育は、やはり知識を持つためのもので、正しい知識を持たないとその情報が間違っている、自分の思い込みが間違っていると気付くことができない。 ・ファクトチェックの解説として、真偽を確かめる、真偽を検証するというようなことを入れてもらえればよいと思うが。
対応方針	<p>○事例を以下のとおり修正</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Aさんは、とある会社の社長をしており、海外によく出かけて<u>海外での写真を頻繁にSNSに投稿している。</u> 2 Aさんの親が体調を崩し、Aさんは実家に長期間滞在していた。 3 Bさんは、長らくAさんの姿を見かけず、<u>AさんのSNSへの投稿がされなくなったことから「Aさんは海外で新型コロナウイルスに感染したに違いない」と思い、SNS上に「〇〇会社のA社長は新型コロナウイルスに感染したのではないかと投稿をした。</u> 4 この投稿が拡散し、Aさんの経営する会社への問い合わせや、<u>会社のホームページやSNSへの誹謗中傷の書き込みが増え、業務に支障をきたすようになった。</u> <p>○イ ポイントの部分を次のとおり変更</p> <p>Bさんは、社長のAさんはよく海外に行っているという思い込みがあり、長らく見かけないことで、この思い込みが確信に変わり、<u>海外に出かけているのに写真をSNSに投稿しないことから、A社長は海外で新型コロナウイルスに感染したとSNSに投稿してしまった。</u></p> <p>Bさんは「<u>確証バイアス</u>」に陥っており、このバイアスの特徴は、自分の中に元々ある特定の物事や人への思い込みを確信に変えるところにある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bさんの立場から：<u>誰もが思い込み・偏見があることを踏まえた上で、自分の思い込みで情報を判断していないか、その思い込みに根拠があるかを情報の発信前に立ち止まって考えることが必要。</u> ・拡散した人の立場から：<u>真偽の分からない情報は拡散してはいけないし、例え本当の情報であったとしても個人にプライバシーを侵害するような投稿に繋がらないか立ち止まって考えることが必要。</u> <p>⇒元々ある思い込みについて立ちどまって考え、勝手な思い込みを取り除く<u>ためには、日頃から人権等について関心を持ち学ぶことが大切。</u></p> <p>⇒真偽の分からない情報は第三者の意見を取り入れて、ファクトチェック (<u>真偽を確かめる</u>) を行う。</p>